



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校

五年生

十月 第③週



学習を始める前に

①必ず用意してください

・国語のノートと漢字ノート

・筆記用具

②注意

・大事だと思われるところはノートに書いてください。

・このビデオで使っているスライドを印刷したい人は、最後のお知らせを見てください。

・「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示にしたがってください。



・必要があるときは、ビデオを止めたり、もう一度ビデオを見たりしてください。

宿題

次回の授業までにやる勉強です。

1. 漢字

今日の漢字テストでできなかった漢字の練習をしましょう。

2. 音読 「大造じいさんとガン」を読みましよう。

3. 次の言葉の意味を説明しましょう。また、その情景を考えて書きましよう。

① あかつきの光

意味…夜明けの光。明け方の光。

情景…小さな小屋でがんの群れを待っていた大造じいさん。その小屋の中に夜明けの光が流れこんできました。

② くれないにそめて

意味…あややかな赤色になる。

情景…残雪は、ハヤブサとの戦いで、胸のあたりが血であややかな赤色になっていた。



大造じいさんとガン

むく はとじゆう
椋 鳩十

知り合いのかりゆうどにさそわれて、わたしは、イノシシがりに出かけました。イノシシがりの人々は、みな栗野岳くりのだけのふもとの、大造じいさんの家に集まりました。じいさんは、七十二歳さいだというのに、こしひとつ曲がっていない、元気な老かりゆうどでした。そして、かりゆうどのだれもがそうであるように、なかなか話し上手の人でした。血管のふくれたがんじょうな手を、いろりのたき火にかざしながら、それからそれと、愉快ゆなかりの話をしてくれました。その話の中に、今から三十五、六年も前、まだ栗野岳のふもとのぬま地に、ガンがさかんに来たころの、ガンの話もありました。わたしは、その折の話を書き土台として、この物語を書いてみました。

さあ、大きな丸太がパチパチと燃え上がり、しようじには自在ざいかぎとなべのかけがうつり、すがすがしい木のおいのするけむりの立ちこめている、山家やまがのろばたを想像しながら、この物語をお読みください。

*栗野岳 かごしま 鹿児島北部にある山。

《新しい漢字》

愉快カク



〱 いろり 〱



今年も、残雪は、ガンの群れを率いて、ぬま地にやって来ました。残雪というのは、一羽のガンにつけられた名前です。左右のつばさにか所ずつ、真つ白な交じり毛をもっていたので、かりゆうどたちからそうよばれていました。

残雪は、このぬま地に集まるガンの頭領らしい、なかなかりこうなやつで、仲間がえをあさっている間も、油断なく気を配っていて、りようじゅうのとどく所まで、決して人間を寄せつけませんでした。

大造じいさんは、このぬま地をかり場にしていたが、いつごろからか、この残雪が来るようになってから、一羽のガンも手に入れることができなくなつたので、いまましく思っていました。

そこで、残雪がやって来たとなると、大造じいさんは、今年こそはと、かねて考えておいた特別な方法に取りかかりました。

それは、いつもガンのえをあさる辺り一面にくいを打ちこんで、タニシを付けたウナギつりばりを、たたみ糸で結び付けておくことでした。

じいさんは、一晩じゅうかかって、たくさんのウナギつりばりをしかけておきました。今度は、なんだかうまくいきそうな気がしてなりません。でした。

よく日の昼近く、じいさんはむねをわくわくさせながら、ぬま地に行きました。昨晩つりばりをしかけておいた辺りに、何かバタバタしているものが見えました。

「しめたぞ。」
じいさんはつぶやきながら、夢中でかけつけました。
「ほほう、これはすばらしい。」

じいさんは、思わず子どものように声を上げて喜びました。一羽だけであつたが、生きているガンがうまく手に入ったので、じいさんはうれしく思いました。

《新しい漢字 読みかえの漢字》

率ひきいる

頭領リョウ

夢中ムチュウ

大群ダイグン

《特別な読み方をする漢字》

昨日きのう





さかんにばたついたとみえて、辺り一面に羽が飛び散っていました。

ガンの群れは、これに危険を感じてえさ場を変えたらしく、付近には一羽も見えませんでした。しかし、大造じいさんは、たかが鳥のことだ、一晩たてば、またわすれてやって来るにちがいないと考えて、昨日よりも、もっとたくさんをつりばりをばらまいておきました。

そのよく日、昨日と同じ時こくに、大造じいさんは出かけていききました。

秋の日は、美しくかがやいていました。

じいさんがぬま地にすがたを現すと、大きな羽音とともに、ガンの大群が飛び立ちました。じいさんは、「はてな。」と首をかしげました。

つりばりをしかけておいた辺りで、確かに、ガンがえをあさった形せきがあるのに、今日は一羽もはりにかかっていません。いったい、どうしたのでしょうか。

気をつけて見ると、つりばりの糸が、みなぴいんと引きのばされています。

ガンは昨日の失敗にこりて、えをすぐには飲みこまないで、まず、くちばしの先にくわえて、ぐうつと引っぱってみてから、いじょう無しとみとめると、初めてのみこんだものらしいのです。

これも、あの残雪が、仲間を指導してやったにちがいありません。「ううむ。」

大造じいさんは、思わず感たんの声をもらしてしまいました。

ガンとかカモとかいう鳥は、鳥類の中で、あまりりこうなほうではないといわれていますが、どうしてなかなか、あの小さい頭の中に、たいしたちえをもっているものだなということ、今さらのように感じたのであります。

《新しい漢字

ドウ

読みかえの漢字》

指導

チヨウ

鳥類





そのよく年も、残雪は、大群を率いてやって来ました。そして、例によって、ぬま地のうちでも見通しのきく所をえさ場を選んで、えをあさるのでした。

大造じいさんは、夏のうちから心がけて、タニシを五俵ばかり集めておきました。そして、それを、ガンの好みそうな場所にばらまいておきました。どんなあんばいだったかなと、その夜行ってみると、案の定、そこに集まって、さかんに食べた形せきがありました。

そのよく日も、同じ場所に、うんとこさとまいておきました。そのよく日も、そのまたよく日も、同じようなことをしました。

ガンの群れは、思わぬごちそうが四、五日も続いたので、ぬま地のうちでも、そこが、いちばん気に入りの場所となったようでありました。

大造じいさんは、うまくいったので、会心のえみをもらいました。そこで、夜の中に、えさ場より少しはなれた所に小さな小屋を作って、その中にもぐりこみました。そして、ねぐらをぬけ出して、このえさ場にやって来るガンの群れを待っているのです。

あかつきの光が、小屋の中にすがすがしく流れこんできました。

ぬま地にやって来るガンのすがすがしが、あなたの空に点々と見えだしました。先頭に来るのが、残雪にちがいありません。



《新しい漢字

ヒヨウ

読みかえの漢字》

五俵

ジヨウ

案の定





その群れは、ぐんぐんやって来ます。

「しめたぞ。もう少しのしんぼうだ。あの群れの中に一発ぶちこんで、今年こそは、目にも物を見せてくれるぞ。」りょうじゅうをぐっとにぎりしめた大造じいさんは、ほおがびりびりするほど引きしまるのでした。

ところが、残雪は油断なく地上を見下ろしながら、群れを率いてやって来ました。そして、ふと、いつものえさ場に、昨日までなかった小さな小屋をみとめました。

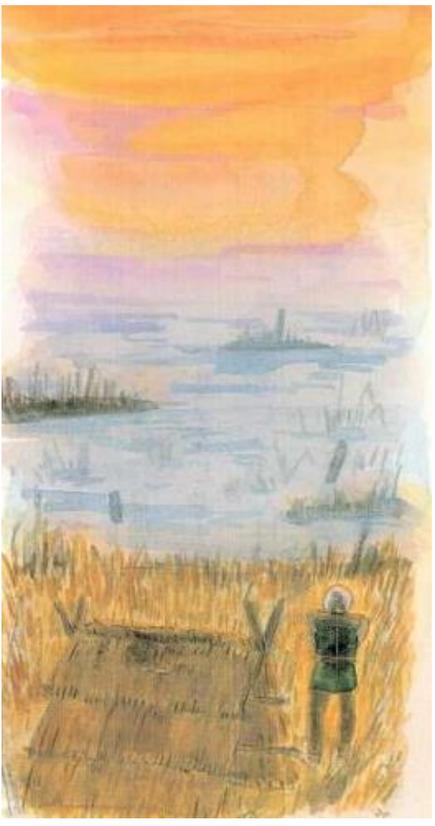
「様子の変わった所には、近づかぬがよいぞ。」かれの本能は、そう感じたらしいのです。ぐっと、急角度に方向を変えると、その広いぬま地のずっと西側のはしに着陸しました。

もう少しでたまのとどきよりに入ってくる、というところで、またしても、残雪のためにやられてしまいました。

大造じいさんは、広いぬま地の向こうをじっと見つめたまま、

「ううん。」

と、うなつてしまいました。





今年もまた、ぼつぼつ、例のぬま地にガンが来る季節になりました。大造じいさんは、生きたドジョウを入れたどんぶりをもって、鳥小屋の方に行きました。じいさんが小屋に入ると、一羽のガンが、羽をばたつかせながら、じいさんに飛び付いてきました。

このガンは、二年前、じいさんがつりばりの計略で生けどったものだったのです。今では、すっかりじいさんになついています。ときどき、鳥小屋から運動のため外に出してやるが、ヒュー、ヒュー、ヒューと口笛をふけば、どこにいてもじいさんの所に帰ってきて、そのかた先に止まるほど慣れていました。

大造じいさんは、ガンがどんぶりからえを食べているのを、じつと見つめながら、
「今年はひとつ、これを使ってみるかな。」
と、独り言を言いました。

じいさんは、長年の経験で、ガンは、いちばん最初に飛び立ったものの後について飛ぶ、ということを知っていたので、このガンを手に入れたときから、ひとつ、これをおとりに使って、残雪の仲間をとらえてやろうと、考えたのでした。

さて、いよいよ残雪の一群が今年もやって来たと聞いて、大造じいさんは、ぬま地へ出かけていきました。

ガンたちは、昨年じいさんが小屋がけた所から、たまのとどくきよりの三倍もはなれている地点を、えさ場にしているようでした。そこは、夏の出水しゅつすいで大きな水たまりができて、ガンのえが十分にあるらしかったのです。

「うまくいくぞ」

大造じいさんは、青くすんだ空を見上げながら、にっこりとしました。

《新しい漢字》

慣れるな

独り言ひとりごと





その夜のうちに、飼い慣らしたガンを例のえさ場に放ち、昨年建てた小屋の中にもぐりこんで、ガンの群れを待つことにしました。

「さあ、いよいよ戦とう開始だ。」

東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。

残雪は、いつものように群れの先頭に立って、美しい朝の空を、真一文字に横切ってやって来ました。

やがて、えさ場に下りると、グワア、グワアというやかましい声で鳴き始めました。大造じいさんのむねは、わくわくしてきました。しばらく目をつぶって、心の落ち着くのを待ちました。そして、冷え冷えするじゅう身をぎゅつとにぎりしめました。

じいさんは目を開きました。

「さあ、今日こそ、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。」

くちびるを二、三回静かにぬらしました。そして、あのおとりを飛び立たせるために口笛をふこうと、くちびるをとんがらせました。と、そのとき、そのすごい羽音とともに、ガンの群れがいちどにバタバタと飛び立ちました。

「どうしたことだ。」

じいさんは、小屋の外にはい出してみました。

ガンの群れを目がけて、白い雲の辺りから、何か一直線に落ちてきました。

「ハヤブサだ。」

ガンの群れは、残雪に導かれて、実にすばやい動作で、ハヤブサの目をくらしながら飛び去って行きます。

「あっ。」

一羽、飛びおくれたのがいます。

大造じいさんのおとりのガンです。長い間飼い慣らされていたので、野鳥としての本能がにぶっていたのでした。

《新しい漢字 読みかえの漢字》

飼^かい慣^らす

開始^シ

真^まっ赤^か

導^{みち}かれる



ハヤブサは、その一羽を見のがしませんでした。

じいさんは、ピュ、ピュ、ピュと口笛を吹きました。

こんな命がけの場合でも、飼い主のよび声を聞き分けたとみえて、ガンは、こつちに方向を変えました。

ハヤブサは、その道をさえぎって、パーンと一けりけりしました。

ぱっと、白い羽毛があかつきの空に光って散りました。ガンの体はななめにかたむきました。

もう一けりと、ハヤブサがこうげきのしせいをとったとき、さっと、大きながげが空を横切りました、

残雪です。

大造じいさんは、ぐっとじゆうをかたに当て、残雪をねらいました。が、なんと思っただか、再びじゆうを下ろしてしまいました。

残雪の目には、人間もハヤブサもありませんでした。ただ、救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけでした。

いきなり、敵にぶつかっていきました。そして、あの大きな羽で、力いっぱい相手をなぐりつけました。

不意を打たれて、さすがのハヤブサも、空中でふらふらとよろめきました。が、ハヤブサも、さるものです。さっと体勢を整えると、残

雪のむな元に飛び込みました。

ぱっ

ぱっ

羽が、白い花卉のように、すんだ空に飛び散りました。

そのまま、ハヤブサと残雪は、もつれ合って、ぬま地に落ちていきました。

《新しい漢字 読みかえの漢字》

ふたたび

テキ

再び

敵

体勢

セイ

整える

ととの

花卉

ベン





大造じいさんはかけつけました。

二羽の鳥は、なおも地上ではげしく戦っていました。が、ハヤブサは、人間のすがたをみとめると、急に戦いをやめて、よろめきながら飛び去っていきました。

残雪は、むねの辺りをくれないにそめて、ぐったりとしていました。しかし、第二のおそろしい敵が近づいたの感じると、残りの力をふりしぼって、ぐっと長い首を持ち上げました。そして、じいさんを正面からにらみつけました。

それは、鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようでありました。

大造じいさんが手をのばしても、残雪は、もうじたばたさわぎま senでした、それは、最期ごきの時を感じて、せめて頭領としてのいげんをきず付けまいと努力しているようでもありました。

大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対しているような気がしませんでした。





残雪は大造じいさんのおりの中で、ひと冬をこしました。春になると、そのむねのきずも治り、体力も元のようにになりました。ある晴れた春の朝でした。

じいさんは、おりのふたをいっばいに開けてやりました。

残雪は、あの長い首をかたむけて、とつ然に広がった世界におどろいたようでありました。が、

バシッ。

快い羽音一番、一直線に空に飛び上がりました。

らんまんときいたスモモの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散りました。

「おうい、ガンの英ゆうよ。おまえみたいなえらぶつを、おれは、ひきよくなやり方でやつけたかあないぞ。なあ、おい。今年の冬も、仲間を連れてぬま地にやって来いよ。そうして、おれたちは、また堂々と戦おうじゃあないか。」

大造じいさんは、花の下に立って、こう大きな声でガンによびかけました。そうして、残雪が北へ北へと飛び去っていくのを、晴れ晴れとした顔つきで見守っていました。

いつまでも、いつまでも、見守っていました。

《読みかえの漢字》

こころよ
快い

きよ
清らか



まとめの問題

文章全体を読み返して答えましょう。

- (1) 大造じいさんは残雪を、最初どのように思っていましたか。
- (2) 大造じいさんの計略は、一年目、二面目、三年目に、それぞれ違っています。まとめてみましょう。

① 一年目

② 二年目

③ 三年目

- (3) じいさんがんがハヤブサにおそわれたとき、じいさんは一度残雪をねらいましたが、再びじゅうを下ろしてしまいました。それはなぜですか。

- (4) 北へ飛び去る残雪に大造じいさんは、なんとよびかけましたか。そのなかで、じいさんが一番言いたかったのはどの言葉ですか。

まとめの問題

文章全体を読み返して答えましょう。

(1) 大造じいさんは残雪を、最初どのように思っていましたか。
残雪が来るようになってから、一羽のガンも手に入らなくなったので、いまいましく思っていた。

(2) 大造じいさんの計略は、一年目、二面目、三年目に、それぞれ違っています。まとめてみましょう。

① 一年目
タニシを付けたたくさんのうなぎばりをしかけた、一羽のガンをつかまえた。次の日は、しかけを見破られて失敗した。

② 二年目
タニシをまいたところがガンたちのえさ場になるようにした。そこに集まったガンをりょうじゅうで仕留めようとしたが、小屋を用心されてうまくいかなかった。

③ 三年目
二年前につかまえたガンをおとりにして、じゅうでねらったが、ハヤブサにじゃまされて失敗した。

(3) じいさんのガンがハヤブサにおそわれたとき、じいさんは一度残雪をねらいましたが、再びじゅうを下ろしてしまいました。
それはなぜですか。

仲間を救うことだけを考えている残雪の姿に、心を動かされたから。

(4) 北へ飛び去る残雪に大造じいさんは、なんとよびかけましたか。
そのなかで、じいさんが一番言いたかったのはどの言葉ですか。
また、堂々と戦おうじゃないか。

大造じいさんの気持ちの移り変わりをまとめよう。

場面①を参考にまとめましょう。

	かりの様子	大造じいさんの気持ち
場面①	大造じいさんは、ぬま地をかり場にしていたが、残雪が来てから一羽のガンも手に入れることができなくなっていた。 〈一年目〉	いまいましく思っていた。
場面②	〈二年目〉	

大造じいさんの気持ちの移り変わりをまとめよう。

	かりの様子	大造じいさんの気持ち
場面③	〈三年目〉	
場面④		



大造じいさんの気持ちの移り変わりをまとめよう。

場面①を参考にまとめましょう。

	かりの様子	大造じいさんの気持ち
場面①	<p>大造じいさんは、ぬま地をかり場にしていたが、残雪が来てから一羽のガンも手に入れることができなくなっていた。</p> <p>〈二年目〉</p> <p>特別な方法をしかけた。(タニシを付けたウナギばりを、たたみ糸で結び付けておいた。)</p> <p>ガンがえをあさった形せきがあるのに、一羽もはりにかかっていなかった。残雪がしかけを見破った。</p> <p>〈二年目〉</p> <p>タニシをまいてそこにガンが集まるようにした。しかし、じいさんが作った小屋を見つけた残雪は、ぬま地のずっと西側にガンの群れを着陸させた。残雪にしてやられた。</p>	<p>いまいましく思っていた。</p> <p>生きているガンが手に入って、うれしかった。</p> <p>思わず感たんの声をもらった。小さい頭の中に、大したちえをもっているものだと感じた。</p> <p>うまくいったので、会心のえみをもらった。</p> <p>うまくいくと確信していた。</p> <p>「ううん。」とうなった。</p> <p>残雪の行動に感心した。</p>

大造じいさんの気持ちの移り変わりをまとめよう。

	かりの様子	大造じいさんの気持ち
場面③	〈三年目〉 	「うまくいくぞ。」と、にっこりしました。 うまくいくと確信していた。 強く心を打たれた、ただの鳥に対してしているような気がしなかった。 「堂々とまた戦おう。」 いつまでも、いつもでも見守っていた。 残雪をただの鳥ではなくガンの英雄だと思った。
場面④	二年前つかまえたガンをおとりにして、残雪の仲間をとらえようとした。残雪が大造じいさんのガンを守ろうと、ハヤブサと戦った。けがをしたが、頭領としての堂々たる態度を見せた。 ひと冬を大造じいさんのおりでこした残雪は、北へ北へ飛ぶ去っていった。	



国内チョウで初めて絶滅か

◆東京都の小笠原諸島おがさわらしよとうにしかないチョウが絶滅してしまった可能性かのうせいがあります。もう、生きている姿を見ることができないかもしれません。

小笠原諸島（東京都）にしか生息せいそくしないチョウで、国の天然記念物てんねんきねんぶつに指定されている「オガサワラシジミ」Ⅱ写真Ⅱが絶滅した可能性が高まりました。すでに野生では生息していないと考えられていたが、環境省かんきょうしょうが八月二十七日、都内の二施設しせつで飼育しいくしていた幼虫と成虫が全て死んだと発表。種として滅びた可能性かのうせいがあるのです。

オガサワラシジミは全長約一・五センチで青い羽が特徴とくちょう。外来種がいらいしゆのトカゲに食べられるなどして数が激減げきげんし、環境省が絶滅危惧種ぜつめつきぐしゆに指定していません。野生の個体は、二〇一八年以来確認されていません。

多摩動物公園しんじゆくぎよえんと新宿御苑しんじゆぎえんで人工的に繁殖はんしよくさせる試みが続けてきましたが、八月二十五日に絶滅ぜつめつしました。国内のチョウで絶滅した種はななく、環境省は「種の保存上ほぞんじしよう、非常に危機きき的な状況じようきようにある」としています。

① チョウの名前を書きましよう。

② チョウは東京の二つの施設で育てられてきました。名前を書きましよう。

③ チョウはなぜ数が減ってしまったのですか。



国内チョウで初めて絶滅か

◆東京都の小笠原諸島にしかないチョウが絶滅してしまった可能性が
あります。もう、生きている姿を見ることができないかもしれません。

小笠原諸島（東京都）にしか生息しないチョウで、国の天然記念物に指
定されている「オガサワラシジミ」Ⅱ写真Ⅱが絶滅した可能性が
高まりました。すでに野生では生息していないと考えられていました
が、環境省が八月二十七日、都内の二施設で飼育していた幼虫と成虫が
全て死んだと発表。種として滅びた可能性があるので。

オガサワラシジミは全長約一・五センチで青い羽が特徴。外来種
トカゲに食べられるなどして数が激減し、環境省が絶滅危惧種に指定して
います。野生の個体は、二〇一八年以来確認されていません。

多摩動物公園と新宿御苑で人工的に繁殖させる試みを続けてきまし
たが、八月二十五日に絶滅しました。国内のチョウで絶滅した種はな
く、環境省は「種の保存上、非常に危機的な状況にある」としています。

① チョウの名前を書きましょう。

オガサワラシジミ

② チョウは東京の二つの施設で育てられ
てきました。名前を書きましょう。

多摩動物公園と新宿御苑

③ チョウはなぜ数が減ってしまったので
すか。

外来種のトカゲに食べられるなどした。



国内チョウで初めて絶滅か

◆東京都の小笠原諸島おがさわらしよとうにしかいないチョウが絶滅ぜつめつしてしまった可能性かのうせいがあります。もう、生きている姿を見ることができないかもしれませ
ん。◆

小笠原諸島（東京都）にしか生息せいそくしないチョウで、国の天然記念物てんねんきねんぶつに指定されている「オガサワラシジミ」Ⅱ写真Ⅱが絶滅した可能性が高まりました。すでに野生では生息していないと考えられていたが、環境省かんきょうしょうが八月二十七日、都内の二施設しせつで飼育しいくしていた幼虫と成虫が全て死んだと発表。種として滅びた可能性かのうせいがあるのです。

オガサワラシジミは全長約一・五センチで青い羽が特徴とくちょう。外来種がいらいしゆのトカゲに食べられるなどして数が激減げきげんし、環境省かんきょうしょうが絶滅危惧種ぜつめつきぐしゆに指定しています。野生の個体は、二〇一八年以来確認かんにんされていません。

多摩動物公園たまたと新宿御苑しんじゆくぎえんで人工的に繁殖はんしよくさせる試みしゆみを続けてきましたが、八月二十五日に絶滅ぜつめつしました。国内のチョウで絶滅した種はな
く、環境省かんきょうしょうは「種の保存上ほぞんじゆう、非常に危機きき的な状況じゆうききにある」としていま
す。

① 内容をまとめましょう。

② 分かったこと、思ったこと、考えたことを書きましょう。



宿題

次回の授業までにやる勉強です。

1. 漢字

新しい漢字の復習。

2. 音読

新聞記事 「国内チヨウで初めて絶滅か」を
読みましょう。

3.

絶滅^{ぜつめつ}してしまった生き物、絶滅しそうな生き物に
ついて調べて書きましょう。

(思ったことや感じたことも書けるといいですね。)



お知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
 2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 Akiko@JPNCClass.com です。
 - ❖ このビデオのスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から
ダウンロードや印刷ができます。



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校

五年生

年間学習表



身につけたい力

7月	6月	5月	4月		
		<p>新聞記事から 新聞記事の見出しの 違いについて考えた ことを発表しよう。</p>	<p>自分の意見を持つとう 自分の意見を発表し よう。話し手の意図 を聞き取ろう。</p>	<p>1年間の学習を通し て 先生の話を聞き、学 習を進めよう。</p>	<p>話す／聞く</p>
<p>こんな道があつたら 町の様子を観察し、 気が付いたことや 思ったことを書こう。</p>	<p>大陸は動く 前半と後半に分けて、 書いてあることを短 くまとめよう。</p>	<p>新聞記事から 新聞記事を短くまと めよう。(要約しよ う。)</p> <p>詩を楽しもう 見たり感じたりした ことをもとに、心の つぶやきを言葉にし よう。</p>	<p>やどかり探検隊 物語を読んで、感じ たことや考えたこと を書こう。</p> <p>記録しよう 心に残ったことを、 書留めよう。</p>	<p>新聞記事 記事の要約をし、記 事に対する自分の意 見を書こう。</p>	<p>書く</p>
<p>麦畑 情景を思いうかべな がら読もう。登場人 物の心情と情景が一 体のものでえがかれ ていることを読み取 ろう。</p>	<p>地図が見せる世界 筆者が最も言いたい ことは、どういうこ とだろう。</p> <p>大陸は動く 筆者はどんな考えで、 「大陸は動く」とい う題名をつけたのだ ろう。</p>	<p>詩を楽しもう 文語の詩を読もう。 「自分」の伝え方に ついて考えよう。</p>	<p>やどかり探検隊 主人公の気持ちかを考 え、自分と重ね合わ せて読もう。</p>	<p>新聞記事 記事の内容を読み取 ろう。</p>	<p>読む</p>
<p>仮名づかいの決まり 発音と違う書き方を する、言葉について 知ろう。</p>	<p>つなぎ言葉 つなぎ言葉の働きを 知り、つなぎ言葉を 使えるようになるう。</p>	<p>同じ音の漢字 同じ音を持つ漢字そ れぞれの意味と使い 方を知ろう。</p>			<p>言葉</p>

12月	11月	10月	9月	8月	
<p>目的を考えた話し合おう 目的にそった、有意義な話し合いにするための方法を知ろう。</p>					話す／聞く
<p>わらぐつの中の神 自分の身近な物について、それがどういふものかが読む人にわかるように書こう。</p>	<p>調査したことをまとめて 調査したいことを決めて、調べたことを作文に書こう。</p>	<p>大造じいさんとガン 大造じいさんの気持ちの移り変わりをまとめよう。</p>	<p>身近な環境 身近な環境について調べ、わたしたちができることは何か書こう。</p>	<p>読書記録 読書記録の書き方を知り、自分の同署記録を書こう。 おみやげ 宇宙人の宿題 「宇宙人」「戦争」「現代文明」について思ったこと、考えたことを書こう。</p>	書く
<p>わらぐつの中の神様 おばあちゃんの思い出話と、その前後の現在の話を配した構成を理解しよう。</p>	<p>「その人」と出会って 筆者が手話を通して心を通わせた経験と、それにもとづいた感動を読み取ろう。</p>	<p>大造じいさんとガン 情景を思いうかべながら読もう。</p>	<p>一秒が一年をこわす わたしたちの周りで実際に起きている問題を考えよう。</p>	<p>おみやげ 宇宙人の宿題 宇宙人に目を向けた二つの作品を読み比べよう。</p>	読む
	<p>熟語を使って 熟語の読み方と意味を知ろう。</p>	<p>敬語 正しい敬語の使い方を知らう。日常生活で使っている敬語をまとめよう。</p>	<p>漢語と和語 漢語と和語について知り、意味の違いを調べよう。</p>	<p>漢字のなりたち 今わたしたち使っている漢字が、どのように作られたのか知ろう。</p>	言葉

	3月	2月	1月	
	朗読をしよう 一年間 学習 した物語の中で、 一番好きな作品の 朗読をしよう。			話す／聞く
	月夜のみみずく 作品全体から感じ たこと、場面ごと の印象を書こう。	リレー物語を作ろう もらった物語の続 きを書こう。 推敲をしよう 書いた作文を、よ り良い文章になる ように推敲しよう。	言葉と気持ち 自分の気持ちや意 図を相手に伝える 短い文を書こう。	書く
	月夜のみみずく 「わたし」が「と うさん」と森に 入った初めての経 験、雪の森の中で 見た世界を想像し よう。	詩の広場 うれしいときや悲 しいとき、わたし たちの心は何を感 じ、目にはどんな 風景がうつってい るのか、考えよう。	言葉と気持ち 三つの事例を通し て、筆者は何を うったえようとし たのか考えよう。	読む
五年生の漢字 五年生で習った漢 字の復習をしよう。		言葉の組み立て 複合語の意味、ど んなふうにするの か考えよう。	漢字の読み方と使い 方 言葉によって読み 方が変わる漢字を 知り、正しく使い えるようになるう。	言葉